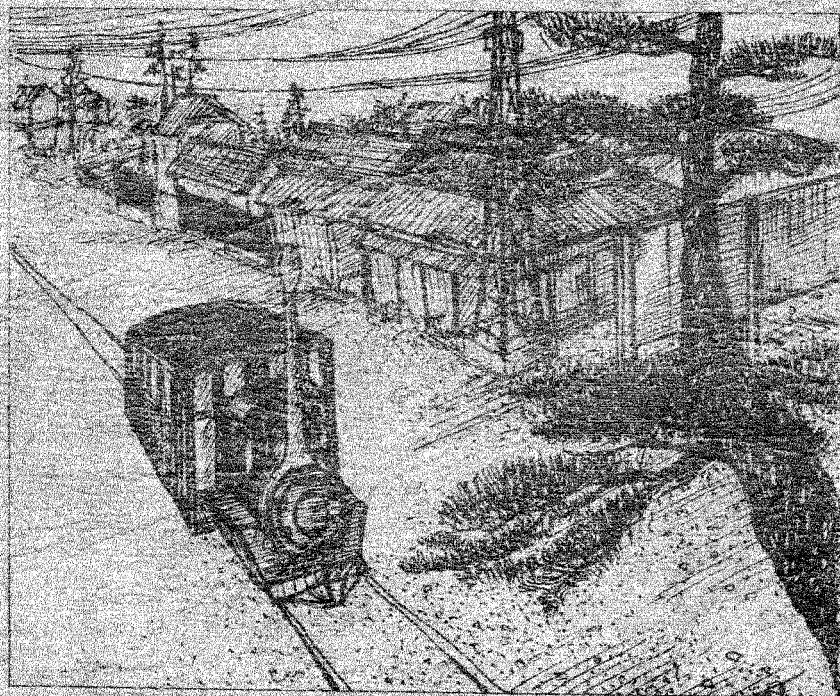


懐しい思い出

ふるさと和田

愛称標識の由来



橋羽を走る軽便

愛称標識設置委員会

目 次

1. 発刊にあたり.....	1
2. 愛称標識一覧表.....	2
3. 愛称標識	
和田町位置図.....	4
和田町自治会 (No 1～7)	5
天竜川町位置図.....	9
天竜川町自治会 (No 8～11)	10
篠ヶ瀬町位置図.....	12
篠ヶ瀬町自治会 (No 12～15)	13
北島町位置図.....	15
北島町自治会 (No 16～19)	16
栗師町位置図.....	18
栗師町自治会 (No 20～23)	19
栗新町位置図.....	21
栗新町自治会 (No 24～25)	22
安間町位置図.....	23
安間町自治会 (No 26～27)	24
安新町位置図.....	25
安新町自治会 (No 28～31)	26
材木町位置図.....	28
材木町自治会 (No 32～34)	29
竜光町位置図.....	31
竜光町自治会 (No 35～37)	32
長鶴町位置図.....	34
長鶴町自治会 (No 38～40)	35
4. 愛称標識設置モデル事業の経過.....	37
5. 愛称標識設置委員会委員名簿.....	38

発刊にあたり

「知るは愛する初め」と言われています。

私達のふるさと和田、いつ頃からか人が住み、暮らしが初まったのでしょうか？

定かではありませんが、とにかく遠い遠い昔からこの地で自然の猛威に翻弄され土地が流され、地形が変わろうとも私達の祖先はこの地をしっかりと守り育て今に残して来たのであります。

その暮らしの中から色々な生活形態が生まれ、長い間の生活の知恵に支えられながら今もお受け継がれているものが数多くあります。

此れらの中には、長い年月を経て習慣となり、又は其のものが地名となり、その地名から昔日の暮らしを知ることが出来るものもあります。

近年当地も土地改良事業の施行に伴い、目まぐるしく発展し、こうした貴重な伝承文化を葬り去ろうとしております。

この時に当たり浜松市平成2年度愛称標識設置モデル事業対象地区に指定されたのを契機に、委員各位のお骨折りを頂き、こうしたことへの掘り起こし、地域の見直しをお願い致しました結果、40本の愛称標識が決定され、各位の奉仕によって建立されました。

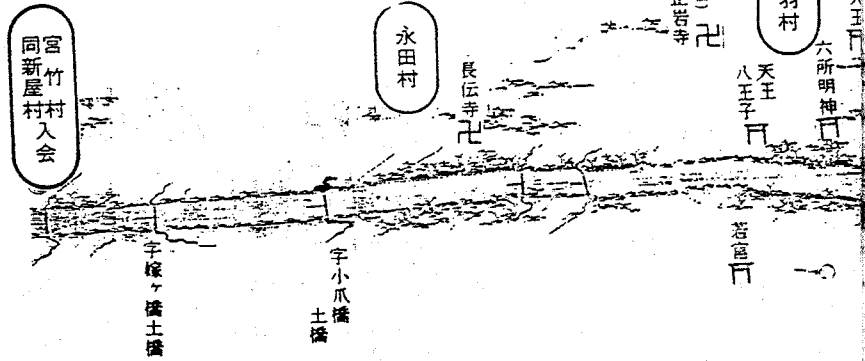
各町夫々の地に木の香漂う真新しい愛称標識が立てられたことは誠に意義深いものがあります。

それにもまして地域住民の郷土愛の高まりと、ふるさと意識の昂揚に資することが出来得た事は何よりも大きな収穫でありましょう。

この事業を行うに当たり、本当に多くの方々のご協力を頂いた事に対して心から感謝を申し上げます。

平成3年3月

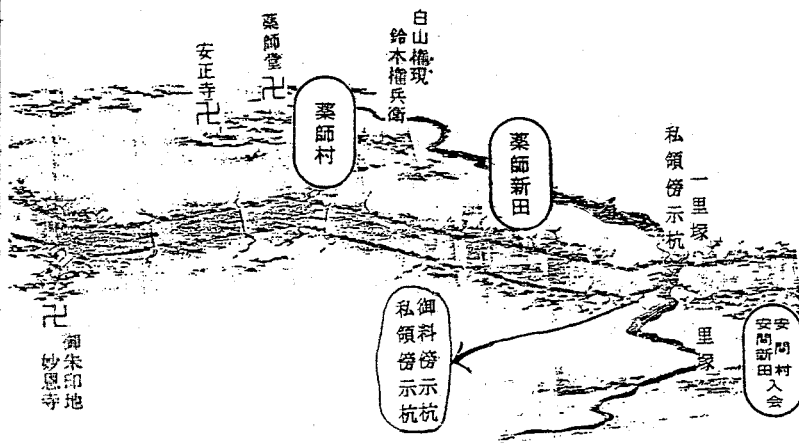
愛称標識設置委員会委員長 伊 藤 忠 雄



愛称標識一覧表

自治会	No	愛称名	よみかた	ページ	備考
和田町自治会	1	嫁 橋	よめばし	5	
	2	子 埋 橋	こずめばし	5	
	3	土 橋	どばし	6	
	4	木舟中村通り	きぶねなかむらどおり	6	
	5	越 前 通 り	こしまえどおり	7	
	6	上 手 通 り	うわてどおり	7	
	7	山 の 神 通 り	やまのかみどおり	8	
天竜川自治会	8	一 本 松 通 り	いっぽんまつどおり	10	
	9	停 車 場 通 り	ていしゃばどおり	10	
	10	寺 道	てらみち	11	
	11	西 ケ 崎 街 道	にしがさきかいどう	11	
篠ヶ瀬自治会	12	永 田 道	ながたみち	13	
	13	火 事 山	かじやま	13	
	14	大 法 せ ぎ 跡	だいほうせぎあと	14	
	15	大 池 跡	おおいけあと	14	
北自島自治会	16	堤 防 跡	ていぼうあと	16	
	17	安 間 川 跡	あんまがわあと	16	
	18	四 辻 跡	よつじあと	17	
	19	新 安 間 川	しんあんまがわ	17	

此川筋右之方ハ凡一里半余上笠井
新田道場縁ヨリ流し出右之方ハ
一里半程上方国邑万蔵庵ヨリ流
レ来リ川ト一丁上ニテ落合流レ来
リ流末参拾丁程下飯田邑地内ニテ
天竜川江落合

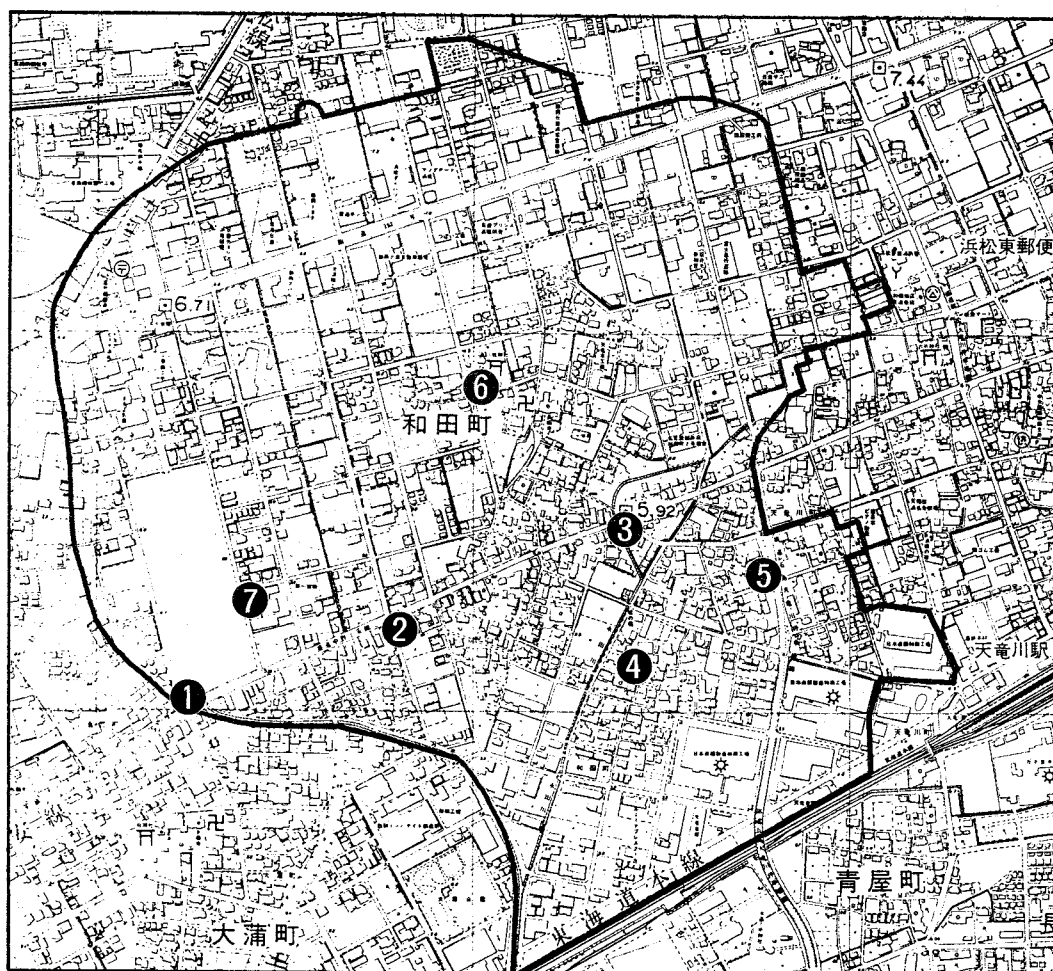


自治会	No	愛称標識	よみかた	ページ	備考
薬自 師治 町会	20	堤防決潰跡	ていぼうけっかいあと	19	
	21	白山様通り	はくさんさまどおり	19	
	22	薬師堂(お堂)	やくしどう(おどう)	20	
	23	欄干橋	らんかんばし	20	
薬自 新治 町会	24	領境石	りょうきょうせき	22	
	25	堤あと	つつみあと	22	
安自 間治 町会	26	一本橋跡	いっぽんばしあと	24	
	27	安間学校跡	あんまがっこうあと	24	
安自 新治 町会	28	姫街道	ひめかいどう	26	
	29	千体堂跡	せんたいどうあと	26	
	30	藤堂山(字・江塚)	とうどうやま(あざ・えづか)	27	
	31	旧松小池川跡	きゅうまつこいけがわあと	27	
材自 木治 町会	32	高堤	たかつつみ	29	
	33	鍛冶屋場跡	かじやばあと	29	
	34	半場橋	はんばばし	30	
竜自 光治 町会	35	竜光寺跡	りゅうこうじあと	32	
	36	竜光踏み切り	りゅうこうふみきり	32	
	37	権現の藪跡	ごんげんのやぶあと	33	
長自 鶴治 町会	38	富士見橋跡	ふじみばしあと	35	
	39	秋葉灯籠跡	あきはとうろうあと	35	
	40	若宮様跡	わかみやさまあと	36	

和田町		
1,030世帯		
人 口	男	1,579人
	女	1,582人
	計	3,161人

No.	愛称名	No.	愛称名
1	嫁 橋	5	越前通り
2	子 埋 橋	6	上手通り
3	土 橋	7	山の神通り
4	木舟中村通り		

(平成3年1月1日現在)



No. 1 ^{よめ}嫁 ^{ばし}橋 設置場所 和田町944番地内 浜松アリーナ敷地

旧東海道（県道312号線）和田町西端（大蒲町）との境（現浜松アリーナ前）の川に架かっている橋附近を小字名“嫁橋”と呼ばれている。この名前は、古老よりの言い伝えによると、むかし夫婦喧嘩をした嫁が東の川のたもとに我が子を埋め（この川に架かる橋を子埋橋）、自分は川に身を投じて果てた。それに架かる橋を嫁橋と云われる。



No. 2 ^こ子 ^{すめ}埋 ^{ばし}橋 設置場所 和田町399番地の1地内 民地

旧東海道（県道312号線）浜松アリーナの少し東に南北に流れる小さな川がある。その川に架けられている橋が“子埋橋”と言われている。この名前は、前に記述されている嫁橋の言い伝えの対になっている橋で「子埋橋」といたしました。



No. 3

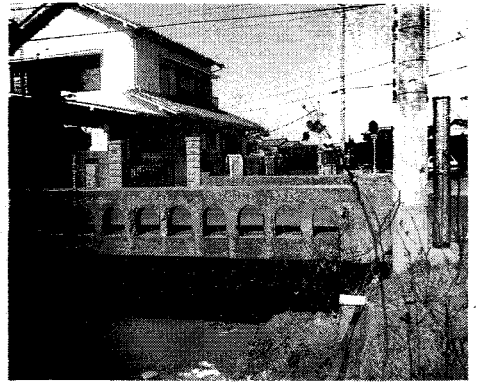
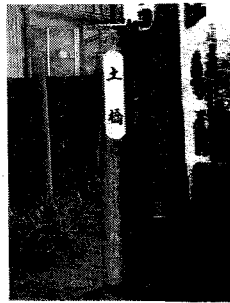
と
土

橋

設置場所

和田町121番地の1地先
篠ヶ瀬排水路法面

和田町内の旧東海道（県道312号線）には、南北に流れる小さな川が4本ありその川に架けられていた橋を西から嫁橋・子埋橋・土橋・石橋という俗称がある。和国道路の西端県道312号線との交差点の西側の橋を“土橋”と呼んでいる。この橋の南側には、昔大きな池があったそうで橋は土で造られていた為、「土橋」と云う名前が残っていると云われている。現在は、昭和27年に架けられたコンクリート橋で永田橋と呼んでいる。



No. 4

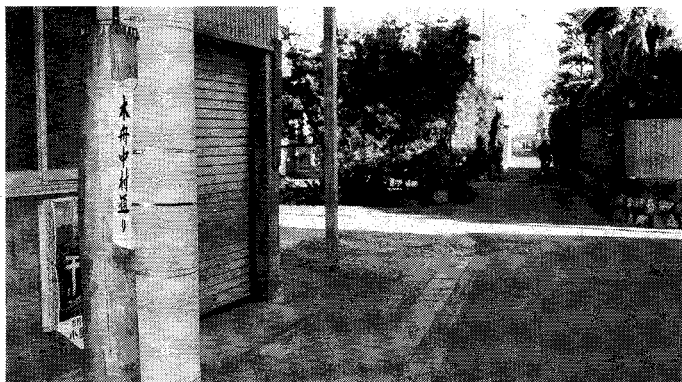
き ぶね なか むら どお
木舟中村通り

設置場所

和田町279番地内
民地

和田町南部の宮井戸川を境に、東側の字名を中村、西側を“木舟”と呼ばれていたもので両方の字名を取り「木舟中村通り」といたしました。

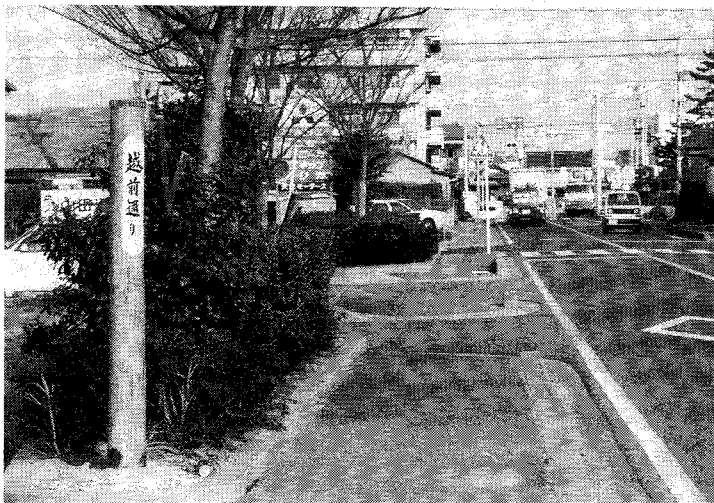
木舟神社周辺は、木舟内・木舟西・木舟南という小字名もあり、神社を中心とした一帯は木舟遺跡といって明治40年2月14日二箇の銅鐸（現在は東京の博物館蔵）が発見された。また、近年になって布目瓦や鎧瓦も出土した。この集落の寺院であった長興庵跡を



後世に伝える為、地元の人が浄財を集めて昭和31年2月8日元の墓地跡に庵（現薬師堂）を建てた。この前には、むかしの長興庵の礎石で奈良時代のものと云われる丸形の石がある。

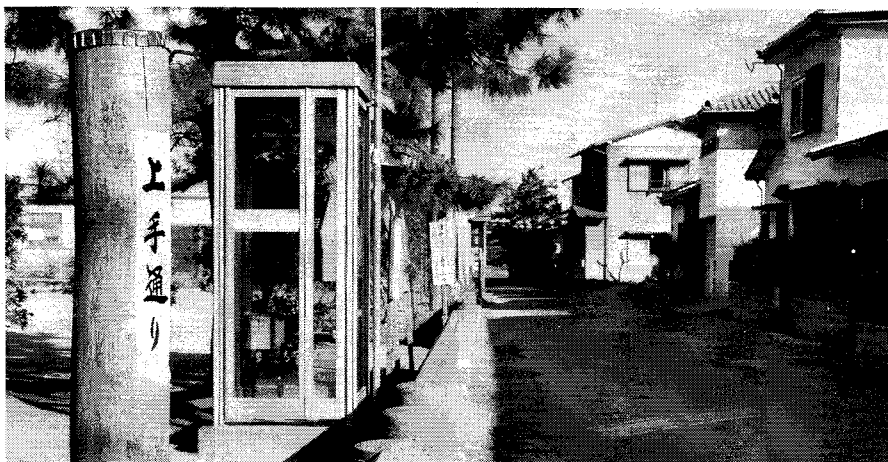
No. 5 ^{こし}越^{まへ}前^{どお}通り 設置場所 和田町151番地の1地内 民地

和田町の東端、天竜川町との境近くに小字越前と云われるところがあり、跨線橋（県道五島天竜川停車場線）工事にあたり昭和56年に発掘が行われ沢山の土器等が出土し、ここを越前遺跡といわれ、ここを通る道路を「越前通り」といたしました。



No. 6 ^う上^て手^{どお}通り 設置場所 和田町1番地の1地内 八柱神社境内

和田村が昭和29年4月に浜松市に合併後の昭和30年10月町域制定前は大字永田であった。その中に栗ノ木・薮田・西茶屋・東茶屋・三反田等40の小字があり現在でも各所に字名が残っている。その小字名から取って八柱神社西側附近を“上手”と言われていたので「上手通り」といたしました。

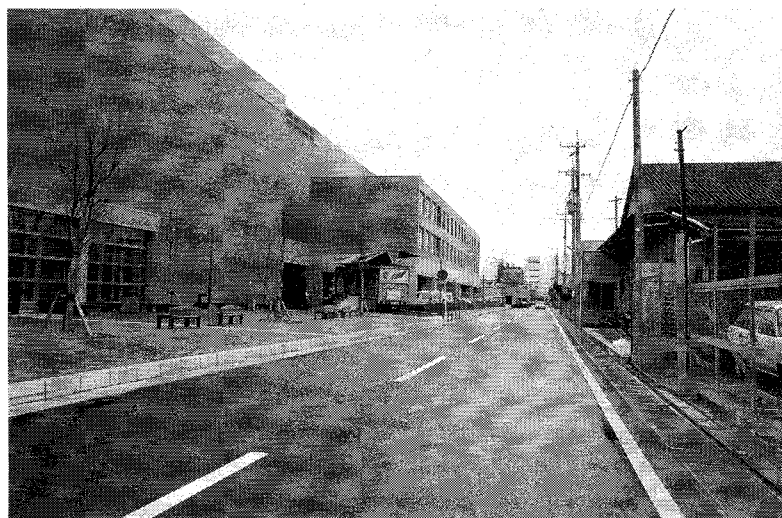


No. 7 ^{やま} ^{かみ} ^{どお} 山の神通り ^{設置場所} 和田町922番地の1地内 ^{民地}

旧浜松合同青果市場（現浜松アリーナ）辺りの小字名を山の神と言い昭和27年の土地改良の折土器が発見され、遺跡発見の端緒となった。その後3,000㎡が埋め立てられ合同青果市場が建設された。昭和54年市場が撤去された後、現在の浜松アリーナ建設に当たり62年より本格的に発掘され弥生時代後期から江戸時代までの住居跡である事が解った。この遺跡を“山の神遺跡”と名付けられたのでその名前を残し、皆さんに広く知ってもらうため、浜松アリーナ東側道路を「山の神通り」といたしました。



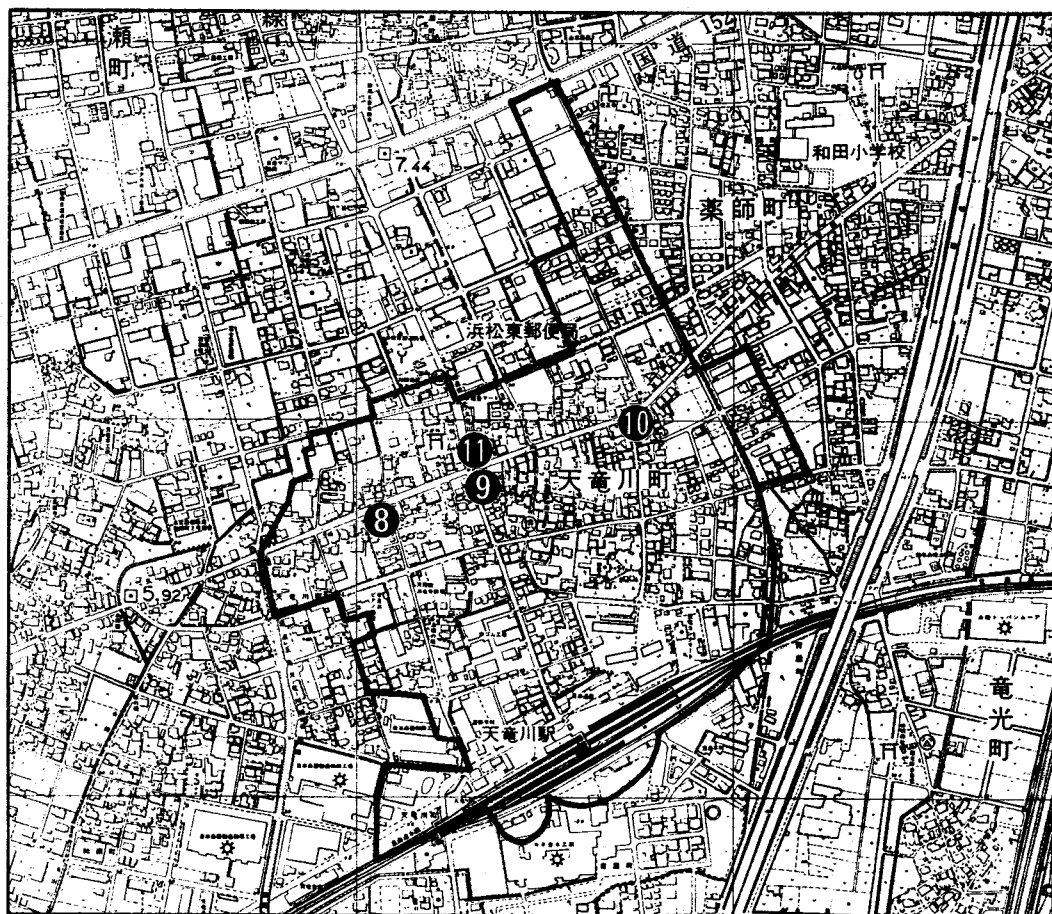
山の神遺跡発掘現場



天竜川町		
744世帯		
人 口	男	1,107人
	女	1,075人
	計	2,182人

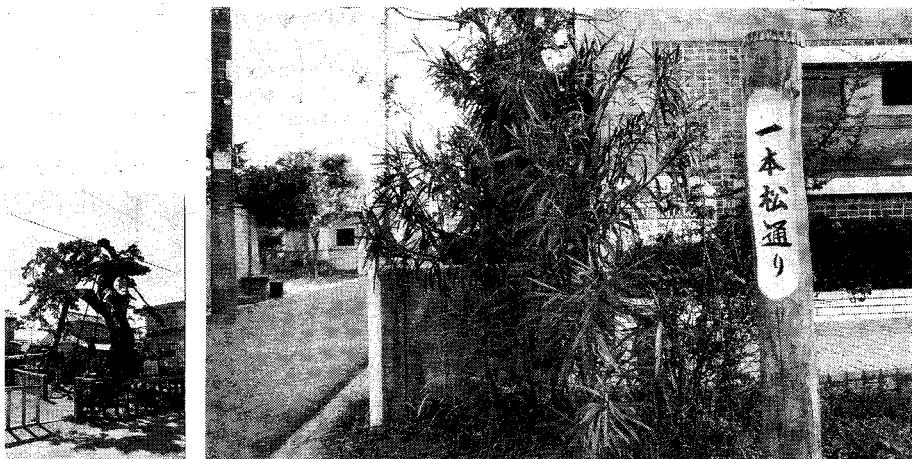
No	愛 称 名
8	一本松通り
9	停車場通り
10	寺 道
11	西ヶ崎街道

(平成3年1月1日現在)



No. 8 ^{いっ びん まつ とお}一本松通り ^{設置場所}天竜川町130番地先 市道路肩

日蓮宗長光山妙恩寺開基の金原法橋左近将監の庭前にあった松と伝えられている。県天然記念物に指定されている樹齢700年（昭和27年現在）の「法橋の松」に旧東海道（県道312号線）から入る細道で天竜川町の旧称橋羽の小字名に一本松と言う名称があり、これにちなんで一本松通りと呼ばれるようになった。



No. 9 ^{い しゃ ば とお}停車場通り ^{設置場所}天竜川町154番地の3地先 県道296号線路肩

明治22年東海道線が開通し、天竜川駅が開設されたのを期に旧西ヶ崎街道を延長して旧東海道から天竜川駅までの間につくられた道路で、昭和初年頃まで駅を停車場と一般に呼ばれていた為、停車場通りと通称されていた。現在県道296号線が熊・小松・天竜川停車場線と呼ばれ、地元では、停車場と言う呼び方が残っている。



No. 10 寺^{てら}

道^{みち} 設置場所

天竜川町1, 011番地先
市道

日蓮上人の法孫日像上人の開山になる古刹長光山妙恩寺に旧東海道（県道312号線）から入る古い参道で、現在もこの道の入口に南無妙法蓮華經と刻んだ石碑が建てられていて、この道が参道であったことを示している。

寺道と云う呼称は妙恩寺開山の1, 311年、今から660年ほど前から使われていたと伝えられている。

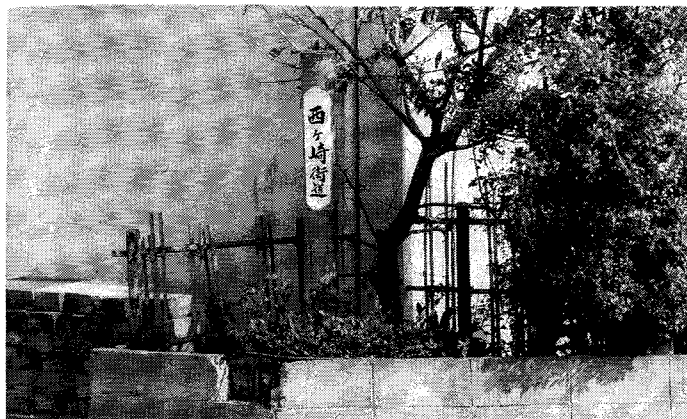


No. 11 西ヶ崎街道^{にし が さき かい どう} 設置場所

天竜川町1, 131番地先
県道路肩

明治25年9月貨物専用の駅として開設され、同31年7月より旅客の乗降も始められて、正式に天竜川駅としての開駅をみたことで、西ヶ崎・笠井・天王・市野等の人々は此の道を通り天竜川駅を利用して旅行をした。この道は天王を経て西ヶ崎に達し、ここで二俣街道へと通じる主要道路で、西ヶ崎街道と呼ばれていた。この街道名は昭和天皇御成婚記念に大正13年、地元で建てた道標石にも刻まれている。なお、この道標は現在六所神社境内に置かれている。この六所神社境内の西南の角に、旧東海道（現県道312号線）にそびえている老松がありましたが、昭和54年10月（風雨によって枝が折れたため）危険であると云う事で伐採された。

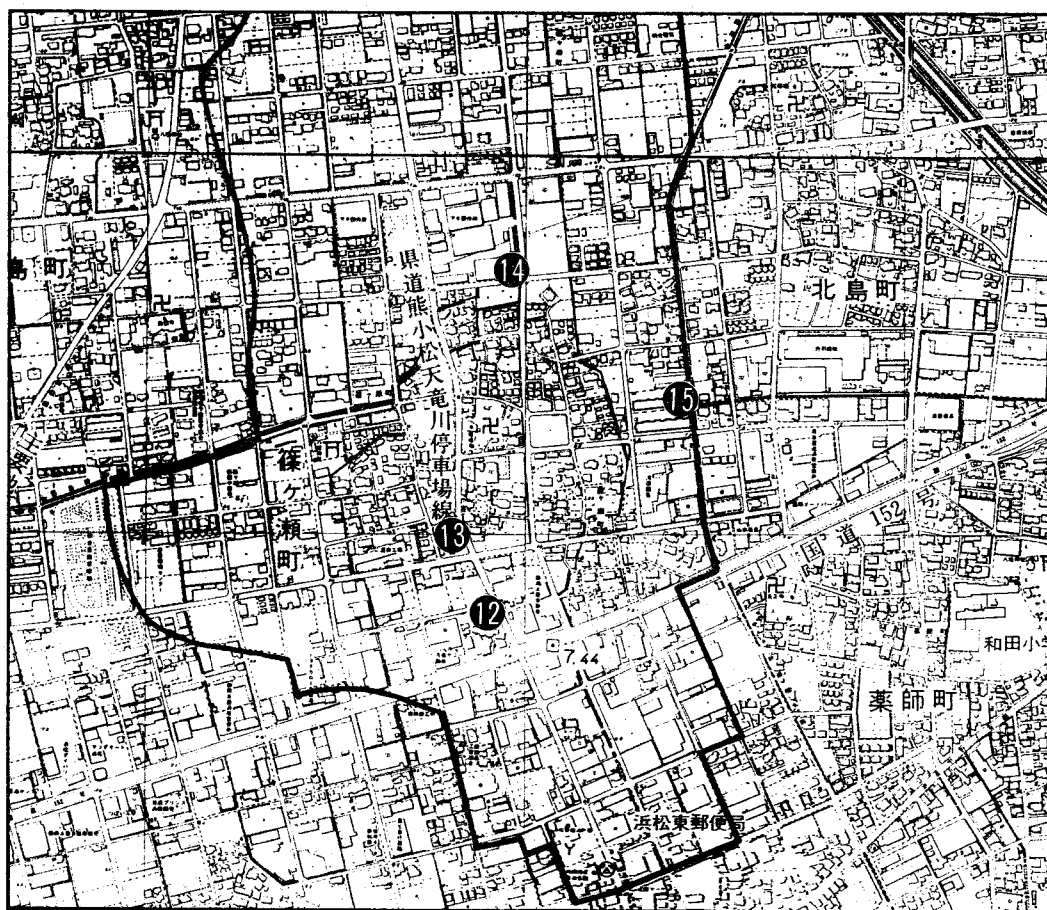
当時樹齢200年・根まわり4.5m・樹高17m位と云われていた。また、本殿の裏には市の保存樹木に指定されている椎の大木がある。



篠ヶ瀬町		
1,303世帯		
人口	男	1,902人
	女	1,798人
	計	3,700人

No	愛 称 名
12	永 田 道
13	火 事 山
14	大法せぎ跡
15	大 池 跡

(平成3年1月1日現在)



No. 12 ^{なが}永 ^た田 ^{みち}道 設置場所 篠ヶ瀬町1,092番地先 市道路肩

篠ヶ瀬から永田（現在の和田町）へ通じる主要道路で昭和40年よりの土地改良事業で道路が変わったが、今も一部が残っている。道幅は6尺（約1.8m）で屋敷添いは7尺（約2.1m）と違い、荷車が通れる程度であった。その頃は、弁米道路があり道付きの地主が土地を道路の一部として貸し、当時の篠ヶ瀬区が毎年3月に弁米料を地主に支払っていた。これは昭和29年4月1日に浜松市に合併するまで続いていたと言われている。

戦争前、昭和13年から14年にかけて主要道路の一部は9尺（約2.7m）に広げ三輪トラックが通行出来る様になった。



No. 13 ^か火 ^じ事 ^{やま}山 設置場所 篠ヶ瀬町856番地先 市道路肩

笹ヶ瀬隕石の落下地で元禄元年（1688）1月12日畑（当時の常楽山増福寺参道とも言われている）に落ちたと記録されている。落下時の摩擦熱により火事になったので火事山と呼ばれている。

この隕石は、県下唯一の物で県の天然記念物にも指定されている。

当時の人は大変信仰心が強く玉薬師様としてあがめ多くの人達の参詣する姿が見られたと言われている。

実物は浜松市の博物館に保管されている。



No. 14 ^{たい} ^{ほう} 大法 ^{あと} せぎ 跡 ^{あど} 設置場所 篠ヶ瀬町630番地先 永田井用水法面

永田井用水路（現和田町）の取入口で字大法地内にあったので大法せぎと言われた。ここから水路は、二つに分かれ東は字表川・佐久間方面に、西は橋の元せぎにより永田井用水と、新井用水に分かれる重要なせぎであった。せぎ上流の大法堤を境に、西側農民と



東側農民との間で、せぎのかけ方が原因で、明治16年頃より絶えず水争いが続き、やっと、昭和2年頃になって和解したと言われている。

今は土地改良事業により、せぎの必要もなくなり永田井用水は形を変えて現存する。

No. 15 ^お 大 ^い 池 ^{あと} 跡 ^{あど} 設置場所 篠ヶ瀬町586番地の1地先 旧浜名中央幹線用水路法面

古老からの言い伝えによると、明治元年5月(明治18年とも言われている)豪雨の為、中ノ町一色地区の天竜川堤防が大決潰し、同時に安間川堤防も決潰、多くの家屋や田畑が甚大な被害を被った。その爪跡として堤防東側が一夜にして、すり鉢状に大きくえぐり取られ大きな池となった。広さが約3反歩(3,000㎡) 位であることから3反池とも言わ



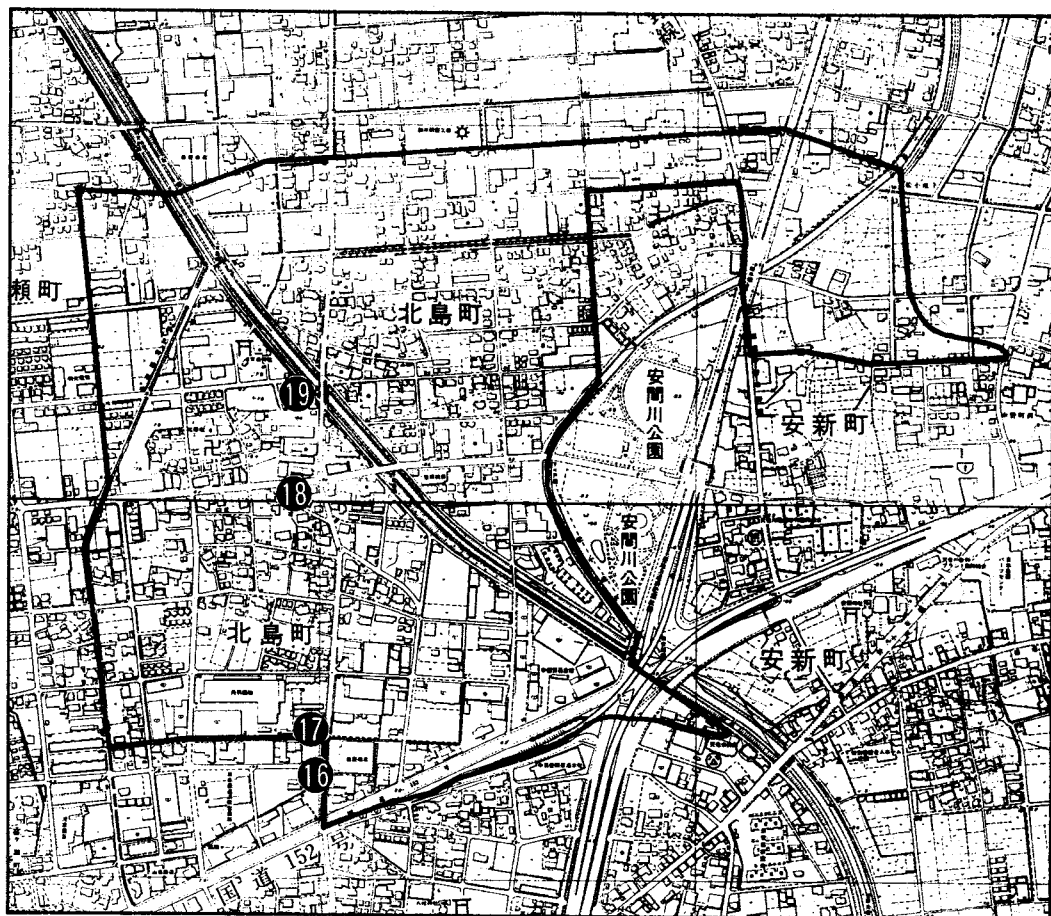
れ、その後学童達の格好の水遊び場となった。

昭和40年の土地改良事業により埋め立てられ、現在はマンションが建ち昔の面影はない。

北 島 町		
882世帯		
人 口	男	1,384人
	女	1,269人
	計	2,653人

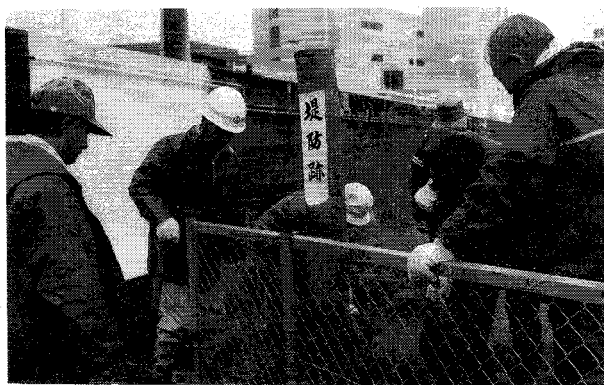
No	愛 称 名
16	堤 防 跡
17	安 間 川 跡
18	四 辻 跡
19	新 安 間 川

(平成3年1月1日現在)



No. 16 ^い堤 ^{ぼう}防 ^{あと}跡 ^{あと}設置場所 薬師町57番地内 民地

ここには長い年月堤防があり、何時築かれたかは詳かでない。延宝6年(1678年)の地図によれば此の附近一帯は大きな池があり、度重なる天竜川の氾濫を防ぐために次第に堅固なものとなったようだ。文政11年12月浜松藩役所、中泉代官所へ提出した控えを見ると、延長は篠ヶ瀬508間・薬師840間・敷幅1丈8尺・高さは平水面より7尺5寸・馬踏6尺と規模の概略を知ることが出来る。此の堤の為、篠ヶ瀬・薬師ほか水下の



村々は水害を免れたが、天竜川よりに取り残された北島は、宿命的な水害の常襲地となった。浜松藩の水防計画の犠牲となったのだ。この怨みの堤防も昭和40年の土地改良事業により姿を消してしまった。

No. 17 ^{あん}安 ^ま間 ^{がわ}川 ^{あと}跡 ^{あと}設置場所 北島町638番地先 民地

部落を斜めに新安間川が昭和18年と19年に堀さくされた為、古くから部落の西と南を囲んで流れていた安間川は、此の部分が排水となつた。安間川は、春先には鯉が沢山上って来たり、夏は子供達の絶好の水遊び場であり、秋は投網で魚を取ったり、「へちま」洗いの人が絶えることのない重要な生活の場であった。部落の人達が忘れることの出来ないことは洪水時に船で学童の送迎や通行人を渡したことである。改修による河川敷の一部は排水路として残し、他は耕地とした。

安間川は、延宝2年8月(1674年)当時の浜北村で天竜川堤防の決潰によって河道

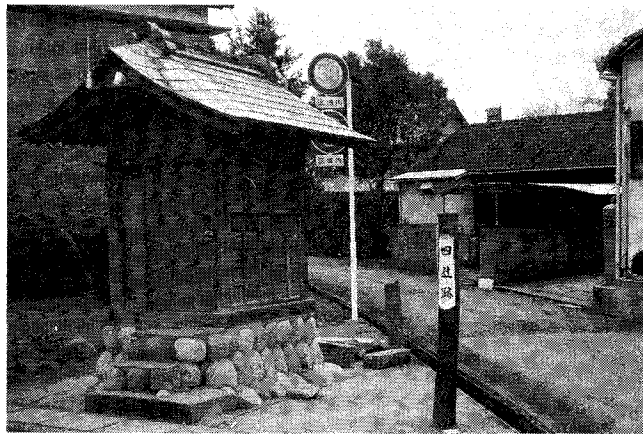


になったものとされる。従って、河道のところどころには池があったことを古い地図は示している。

昭和34年近くに国道1号線が開設され、また昭和40年に土地改良事業により一変し、現在は、宅地・工場の上に介在する一条の水路が安間川の跡地である。

No. 18 ^よ四 ^{つじ}辻 ^{あと}跡 設置場所 北島町631番地内 秋葉灯籠西側

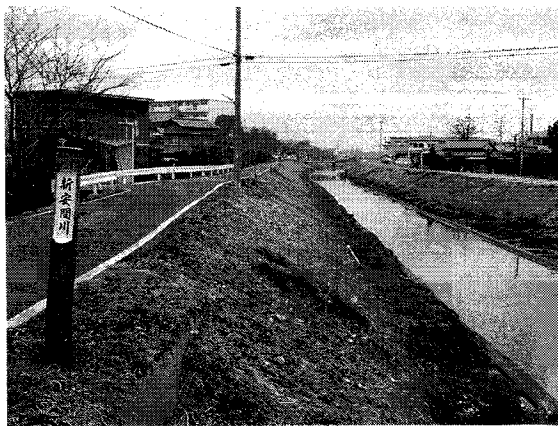
旧東海道薬師地先より山側へ行く一本の道を入ると、安間川の堤防にぶつかり、ここに架かる粗末な板橋を渡ると、田畑の向こうに見えるのが北島の部落である。その道は、一軒の家にぶつかりそうになって、左へ曲がり少し行くと、道が交差した四辻と呼ばれた地点にでる。此处は部落の中央で秋葉灯籠が安置され、部落の自衛消防組の手押しポンプ置場があったり、木製の火の見櫓や掲示板が置かれた部落の重要な場所であった。大正7年2月北島青年会が建てた石の道標が立っていて、大正青年のゆかしさが偲ばれる。今は、土地改良事業により四辻は無くなり、その跡地の傍に往時を偲ばす秋葉灯籠だけが昔の姿でぽつんと安置されている。



No. 19 ^{しん}新 ^{あん}安 ^ま間 ^{がわ}川 設置場所 北島町501番地先 安間川東側堤防

昔の安間川は、町の西篠ヶ瀬地区を南に流れ大きくカーブして南薬師町、薬新町との境界線となって東へ向い、旧東海道安間橋の上流で松小池川と合流、その後南下して天竜川へ注いでいた。地区にとっては重要な用排水路であったが、昭和18・19年に亘り食料増産のため、農地開発営団委託事業により改修工事が進められたが、戦争末期で労力・資材の不足で完成には至らず、昭和37年より4ヶ年計画で再改修工事が施工されて現在ようになった。その後、昭和40年の土地改良事業により道幅も広くなり、今のような立派な永久橋となった。幅40mの川が斜めに町内を通った為に、雑草の刈取り作業が町民の新しい負担となっている。

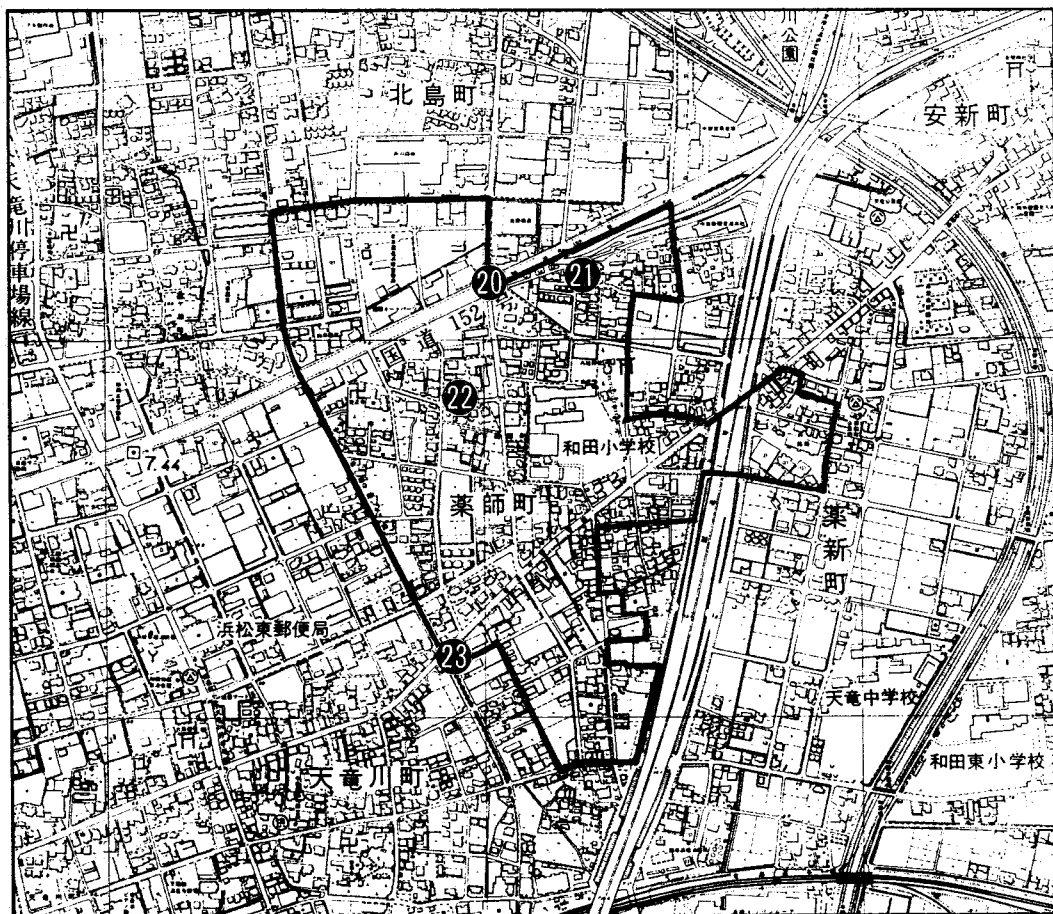
昭和50年右岸に110本の桜が植えられ、今では見事な桜並木となっている。



薬師町		
429世帯		
人 口	男	675人
	女	702人
	計	1,377人

No	愛称名
20	堤防決潰跡
21	白山様通り
22	薬師堂(お堂)
23	欄干橋

(平成3年1月1日現在)



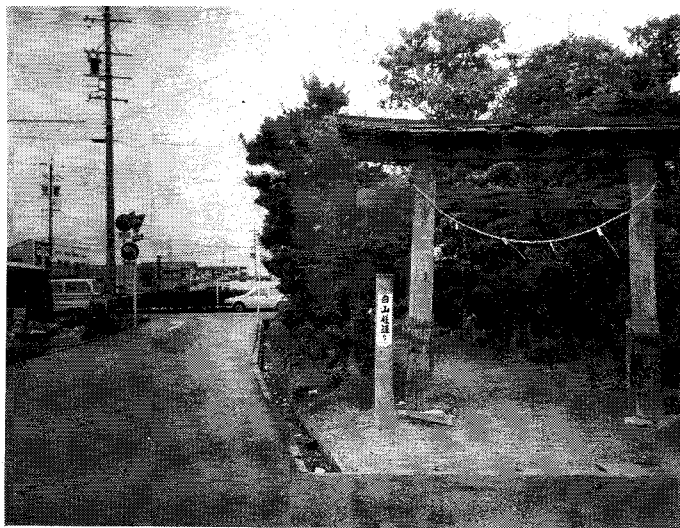
No. 20 堤防決潰跡 設置場所 北島町767番地先 民地

明治元年5月19日数日間降り続いた豪雨により天竜川第1堤防が大決潰をした。そのうち中ノ町村一色地区堤防決潰の奔流が一気に薬師地区を襲い、この地点で第2堤防も耐え切れず大きく決潰した。このため決潰箇所の南側一帯は大池となり、薬師地区は全地域に互り大水害に見舞われ家屋の流失・水没等甚大な被害を蒙った。



No. 21 白山様通り 設置場所 薬師町625番地 白山神社境内

国道152号線立体交叉下り口の左手にある白山神社は、鈴木家（通称権兵衛様）の氏神として凡そ20代（数百年間）に互り祀られてきたと云われており、また、東海道分間延絵図にも白山権現鈴木権兵衛と記されている。



祭神は、“伊邪那美命”とされ家康より社領高3石を賜り、家光の慶安元年に、朱印に改められた。明治維新に際し、上地（返上）となり無社格となったが、その後八柱神社に合祠され今に到っている。現在は土地改良事業により道路に面し往時の面影はないが、この道を白山様通りとしてその名を残したい。

No. 22 ^{やく し どう}薬師堂（お堂） ^{どう}設置場所 薬師町144番地 薬師堂敷地内

薬師堂は旧東海道（県道312号線）より少し北へ入ったところにあり、古くは江戸時代以前から東海道を往来した旅人が病氣平癒・旅の安全祈願の対象としてお参りした薬師如来を安置した堂宇であるが、その後、この辺りの人々の信仰対象となり「お堂」と呼ばれ親しまれてきた。

現在は、地域の集会所を兼ね住民の融和と親交の場となっている。なお、薬師の地名もこの薬師堂からでたものと言われる。薬師堂の前庭に、義民薬師村庄屋小枝桑次郎に関する碑や馬頭観音等が祀られている。



No. 23 ^{らん}欄 ^{かん}干 ^{ばし}橋 ^{ばし}設置場所 薬師町342番地先 浜名幹線用水路法面

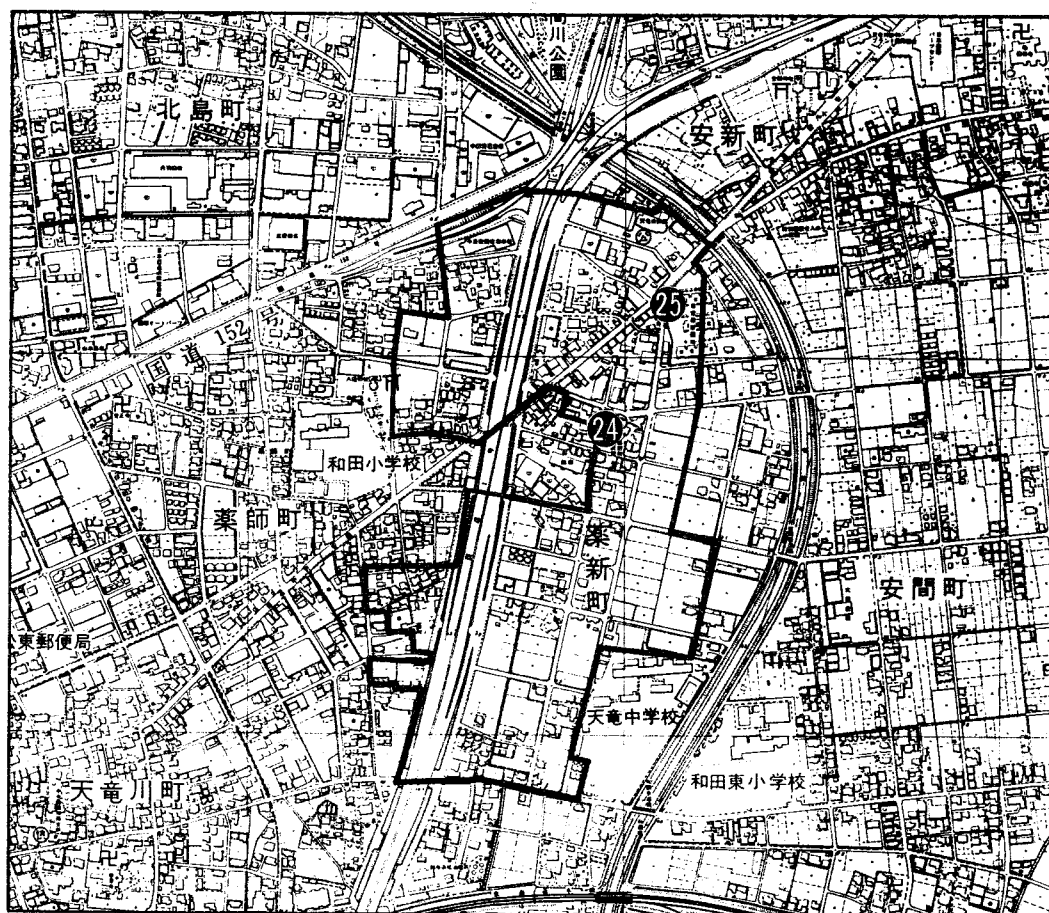
旧東海道（県道312号線）の薬師町西端で、現在の金原用排水路の上に架かっていた橋（江戸期の東海道分間延絵図には悪水抜き土橋となっている）は、古くから「欄干橋」と呼ばれてきた。ただ、この橋の呼名となった欄干の付いた橋が、何時頃のものであったか不明であるが、用排水路の前身である小川（堀）を、昔から「欄干川」と呼び、また小川の西側（天竜川町）に隣接する小字名が「欄干上」と言う等、明らかに欄干のついた橋があった。それがいろいろな呼び名で伝えられてきたものと思われる。



薬新町		
286世帯		
人 口	男	499人
	女	463人
	計	962人

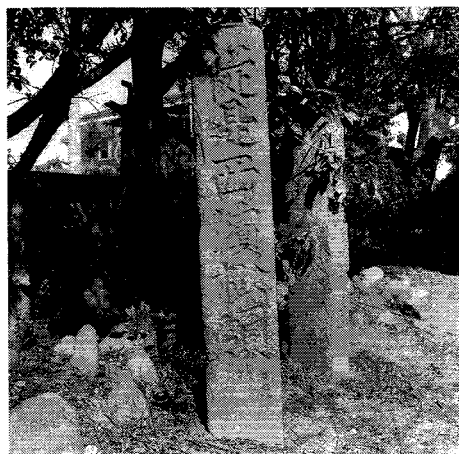
No	愛 称 名
24	領 境 石
25	堤 あ と

(平成3年1月1日現在)



No. 24 ^{りょう}領 ^{きょう}境 ^{せき}石 ^{せき}設置場所 薬新町170番地 和田児童公園敷地内

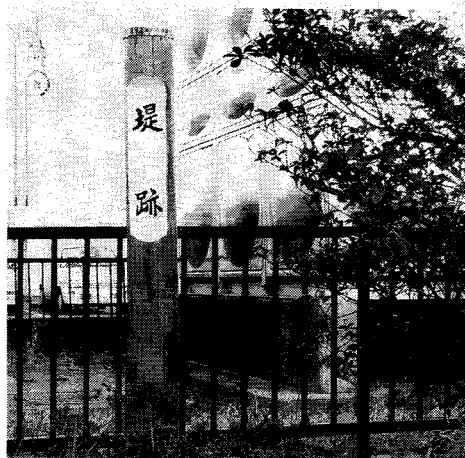
和田児童遊園地の入口を入った左側に「従是西浜松領」と刻まれた領境石があり、高さ1.5m・太さが一辺25cmの四角柱ですが、浜松藩井上河内守と幕府の旗本7千石松平筑後守知行の領分との境にあたる東海道に架かる橋（現安間橋）の西たもとの両側にあったらしい。安間川拡幅工事の時、お天王様（神社）に移転され石段代わりに使われていま



したが、その後、昭和41年東名浜松インター入口道路新設工事の時、掘り出され現在地に移された。昔上り下りの旅人達の道標となって心をなごませたであろう「領境石」を大事にしたいものです。

No. 25 ^{つつみ}堤 ^あと ^{せき}設置場所 薬新町107番地の2 民地

現在でも当地土地登記簿をみると、薬新町地内には堤内と言う小字があるが、徳川時代（嘉永年間以前と思われる）に篠ヶ瀬大池西より、北島町・薬師町・薬新町から竜光町にかけて堤防が築かれていた。資料はあまり残されていないが、当時の農民が風水害から田畑や人家を守る為の、汗の結晶であろうと古老は言う。堤防の途中、薬新地内には、旧東

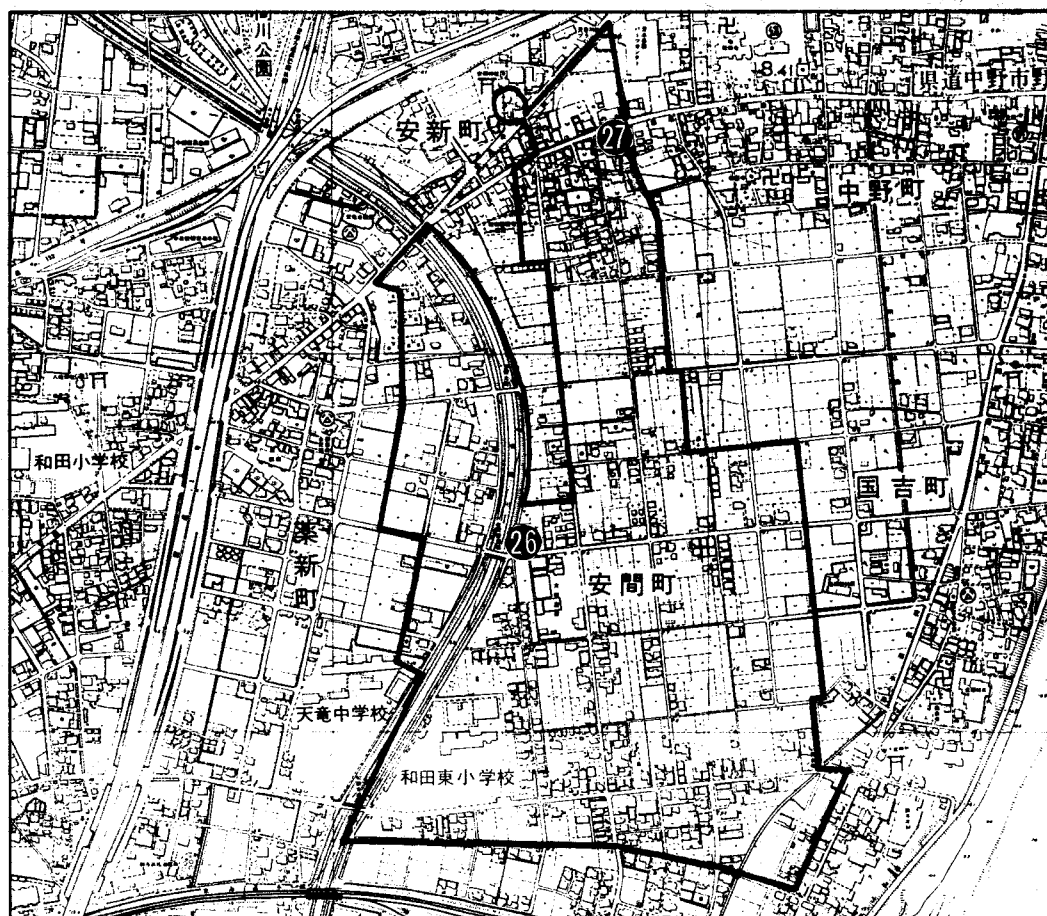


海道（県道312号線）が通っていたので、大雨の時に、住民は堤防に矢板をはめ込み土嚢を積んで堰を作ったものである。昭和の初期までは堰を利用したこともあるが、今は忘れ当時の苦勞を知るすべもないので、工夫して史実を残しておきたいものである。

安間町		
374世帯		
人 口	男	659人
	女	669人
	計	1,328人

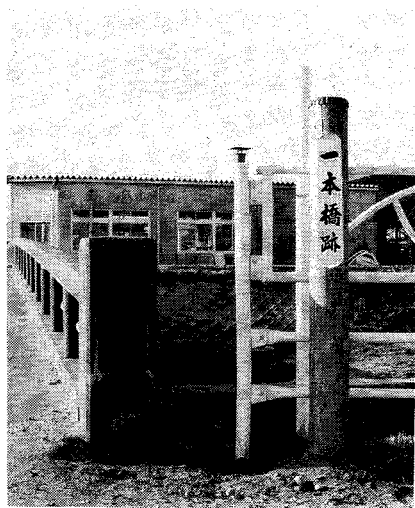
No	愛 称 名
26	一 本 橋 跡
27	安間学校跡

(平成3年1月1日現在)



No. 26 ^{いっ} ^{ばん} ^{ばし} ^{あと} 一本橋跡 ^{設置場所} 安間町231番地先 安間川堤防

安間川に架かるこの橋は、昔から一本橋と名付けられて郷土の人々に親しまれてきた、懐かしい橋であります。明治以前より、この橋を利用する農家の人々がお金を出し会って



造り守ってきました。昔は川の中に杭を打ち、丸太を二つ切りにして渡してあったので、一本橋の名が生まれた。この橋は、私達子供の頃の思い出の橋であります。

現在は立派なコンクリート橋となり、橋名も安間新田橋と改名され安間川を挟ん交通の重要な橋となっています。

No. 27 ^{あん} ^ま ^{がっ} ^{こう} ^{あと} 安間学校跡 ^{設置場所} 安間町35番地内 明善記念館敷地内

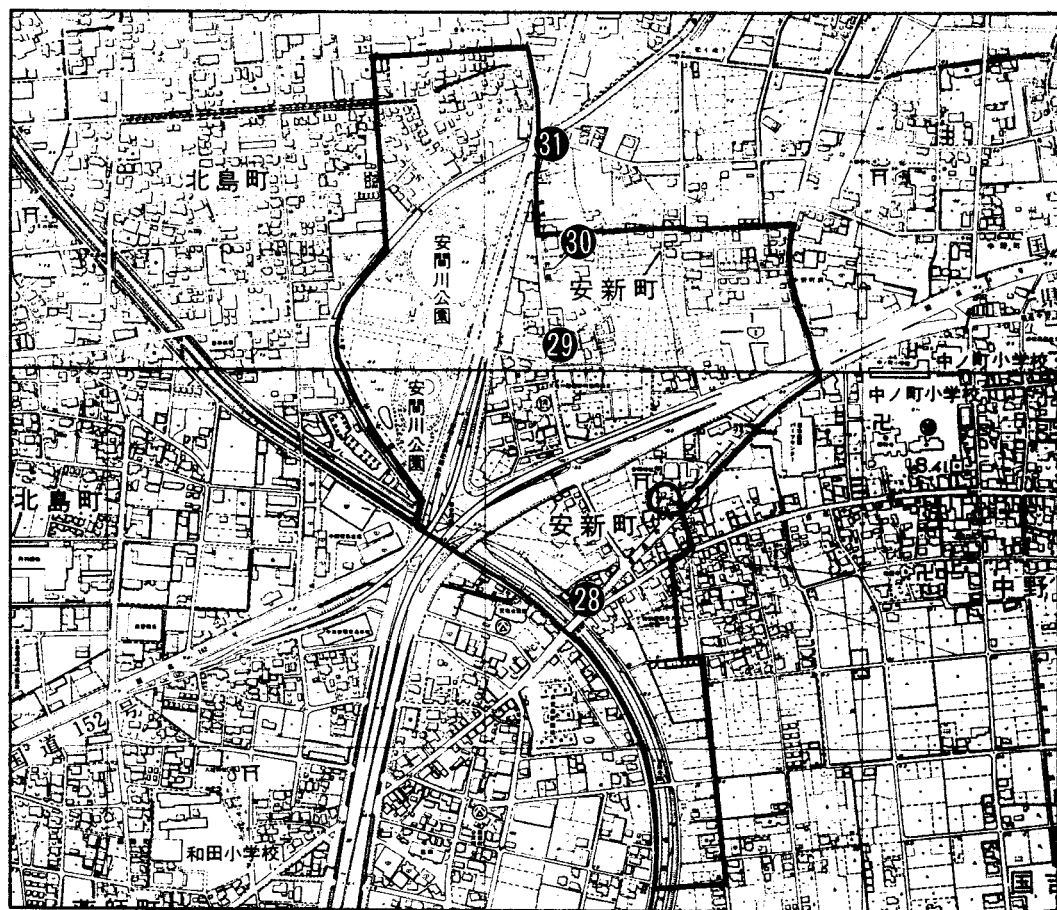
安間学校は、明治5年4月当地出身の大先輩金原明善翁が、生家前に安間書室私塾として創設し郷土の子弟を教育し、明治14年9月安間学校として寄附された公立学校であります。明治14年9月安間より薬師へ移転し、現在の和田小学校が誕生しました。現在の明善記念館は、まさに安間学校の生まれ変わった新しい時代の記念館でもあるわけであり



安新町		
232世帯		
人 口	男	269人
	女	323人
	計	592人

N0	愛 称 名
28	姫 街 道
29	千 体 堂 跡
30	藤堂山 (字・江塚)
31	旧松小池川跡

(平成3年1月1日現在)



No. 28 ^{ひめ}姫 ^{かい}街 ^{どう}道 ^{設置場所} 安新町90番地先 県道314号線路肩

この街道の場所、命名時期等には諸説があるが、その中の一つによると姫街道とは江戸時代に本坂道と呼ばれ、今切れに荒井（現新居）の関所があり入鉄砲と出女に対する調べが厳しく、そのために婦女子の旅人がこの関所を避け湖北をとおる本坂越えのこの往還を通行し、後になって姫街道と言う名前と呼ばれるようになった。

起点は、旧東海道（県道312号線）の明善の生家より少し西の民家の間を北へ行く細い道で、ここに道標石（従鳳来寺道）があったが、諸事情で現在は、浜松市立天竜公民館の敷地に置かれている。この起点のすぐ西側に一里塚（江戸から64里目）があったと云われている。



No. 29 ^{せん}千 ^{たい}体 ^{どう}堂 ^{おと}跡 ^{設置場所} 安新町234番地の3地先 県道314号線路肩

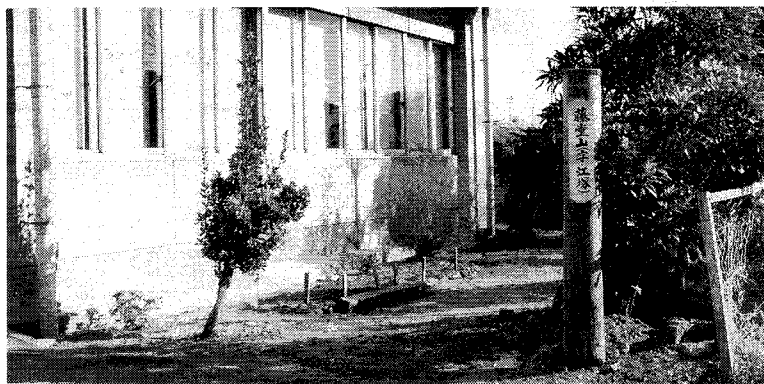
千体堂とは、その名前の通り小さな仏像がここにいつの間にか数多く供えられ、後にお堂におさめ祀つられたとの言い伝えがある。現在は、普伝院境内の安間稲荷拝殿前お堂に移されている。丁度この場所は、東海道に近く、その上、姫街道より分かれて笠井への道（当時の道標石が現存する）であり、当時としては、かなりの交通量で重要な道路であった。



なお、この千体堂があった場所は、広場で東海道・姫街道を通行する旅人や住民達のために、何度か相撲興行や芝居興行が行われ、なかなかの人気であったとの古老からの言い伝えがある。

No. 30 ^{とう}藤 ^{どう}堂 ^{やま}山 ^{設置場所} 安新町274番地内 安新会館敷地

現在（昭和29年浜松市に合併時までは北島地であった）安新町東部・中野町・松小池町に接する位置にあり、室町末期の戦国時代徳川・武田軍がこの辺りで合戦した当時は、文字通り山の地形であったが現在はその姿さえない。この山の南側には、合戦で亡くなった数多くの人々の霊を祀る塚が出来、現在も塚の付く、江塚と云う名が小字となって残されている。



No. 31 ^{あやう}旧 ^{まつ}松 ^こ小池 ^{いせ}川 ^{がわ}跡 ^{あと} ^{設置場所} 安新町1,406番地先 松小池川法面

松小池川は、現在の松小池町・北島町・安新町境を流れる川で、下流において安間川と合流し、やがて天竜川へと流れて行くのです。この川は上記3地区で大きく蛇行し、昔は少しの長雨でも堤防が決壊して道路は勿論、家屋の床上・床下浸水の被害に悩まされ続けていた。雨が一日降り続くと子供達は、腰まで水に漬かり姫街道（県道314号線）を登下校していたものです。

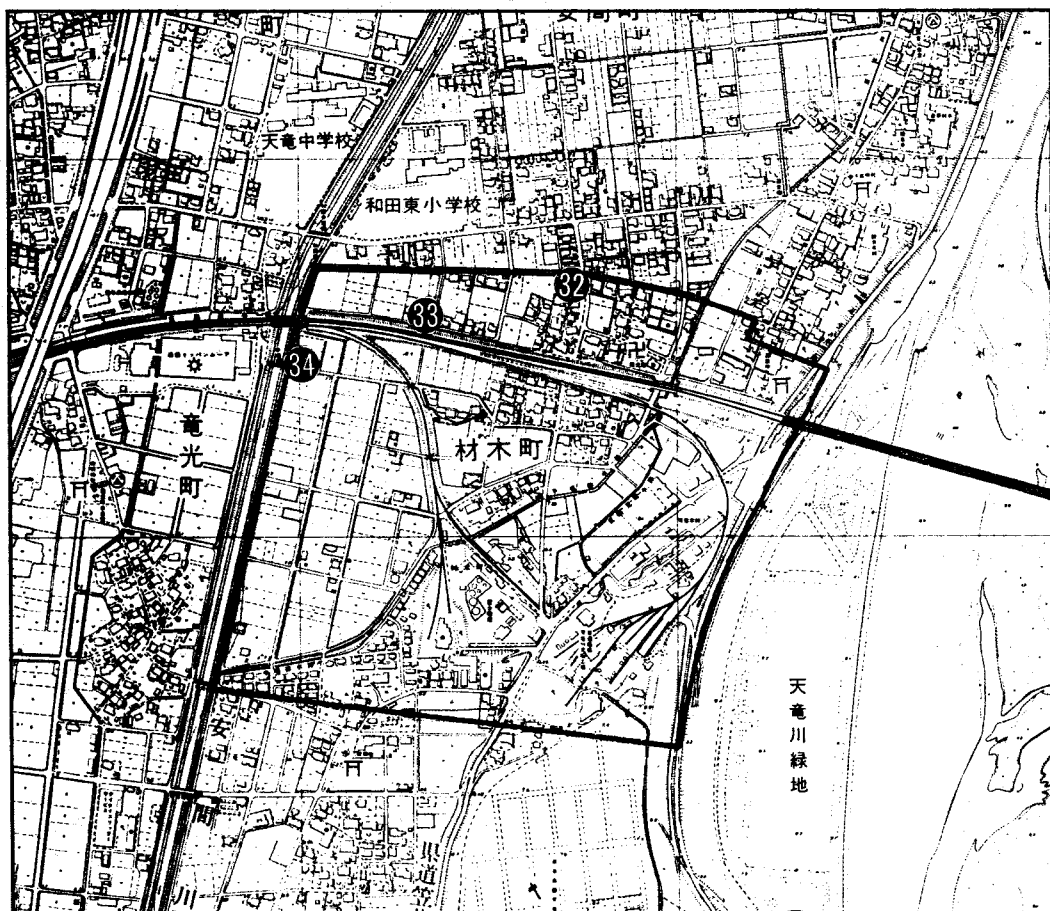
このため、この曲がりくねった川の部分を改修する為、県事業として地域住民と共に約2年の歳月をかけて完成、その後昭和30年頃部分改修し現在に至っている。旧松小池川の跡地は道路となり昭和52年市道に認定された。



材木町		
138世帯		
人 口	男	248人
	女	238人
	計	486人

No	愛 称 名
32	高 堤
33	鍛 冶 屋 場 跡
34	半 場 橋

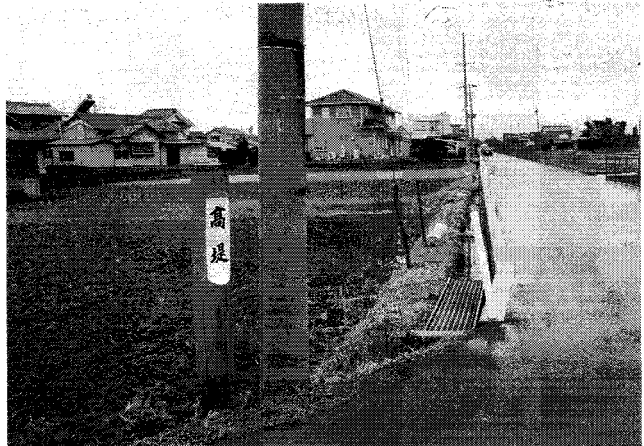
(平成3年1月1日現在)



No. 32 高^{たか}

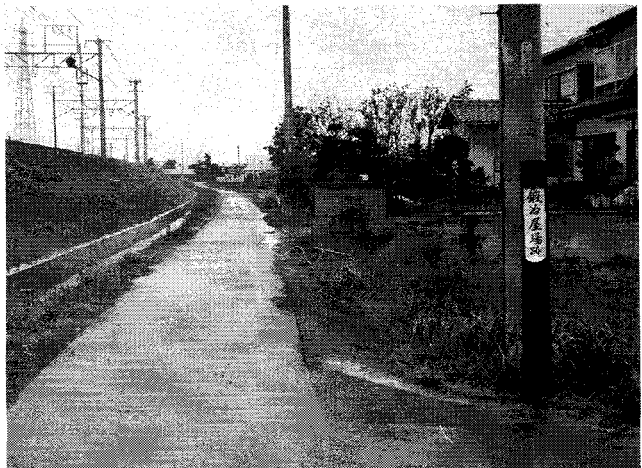
堤^{つつみ} 設置場所 材木町95番地先
市道路肩

この地方を古来遠州長上郡半場村と呼んでいた時から徳川にゆかり多き土地で、寺の歴史は元龜年間（1569年）に龍泉寺七世が開山し、明現山用光庵と名付けた小国家の菩提寺として発寺したものと思われる。たびたびの天竜川氾濫により農作物の被害で貧困になる事を知り、安間の村境と鶴見の村境の農道を盛土して堤を築くことを宝暦時代の小国家の慶岳道寿が行ったものと思われる。また、松の木を植えた上を高堤と呼び、下は無名の堤として、土地改良後も一部の形を残しているが、昭和44年の土地改良に依り取り壊され6m道路となったが、土地の人達は誰云うとなく今も高堤と呼んでいる。



No. 33 鍛^か冶^じ屋^や場^ば跡^{あと} 設置場所 材木町128番地先 市道路肩

明治22年7月新橋から神戸間の鉄道（この時の東海道線は単線であった）が全線開通した。天竜川橋梁は、これより2年前の明治20年6月に着工され、長谷川謹介、西大助宮本順吉の技師3名により、河底から岩盤の深さ23.5～28.7mと云う難工事も克服し、画期的工法により明治22年4月に我が国初の鋼鉄製橋が竣工した。この工事に、国内各地から多くの鳶職人・鍛冶職人・ケレン屋等が集められ、鉄橋工事に使用する資材置場や鍛冶工事の作業場となっていたのが“鍛冶屋場”である。鍛冶屋場は、線路に沿って東西がほそ長くその面積は約6反歩（6000㎡）であった。その後払い下げとなり、現在は、家屋が建ち昔をしのぶ面影は何も残っていない。



No. 34 ^{はん}場 ^{はし}橋 ^{はし}橋 設置場所 材木町153番地先
安間川堤防法面

昭和34年4月に、それまで安間川に架かっていた老朽な木橋に代わり、幅2.9m・長さ30mのコンクリート橋が竣工し、半場橋と名付けられた。

材木町は、和田村が昭和29年浜松市へ合併した翌年10月にそれまでの大字半場をあらためて材木町としたが、伝統ある昔からの名称が失われ、歴史の流れも不透明になり易いので、東西交通の大動脈として機能するこの橋を「半場橋」と命名し、後世に遺すべく腐心されたものである。



竜光町		
122世帯		
人 口	男	204人
	女	211人
	計	415人

No	愛 称 名
35	竜 光 寺 跡
36	竜光踏み切り
37	権 現 の 藪 跡

(平成3年1月1日現在)



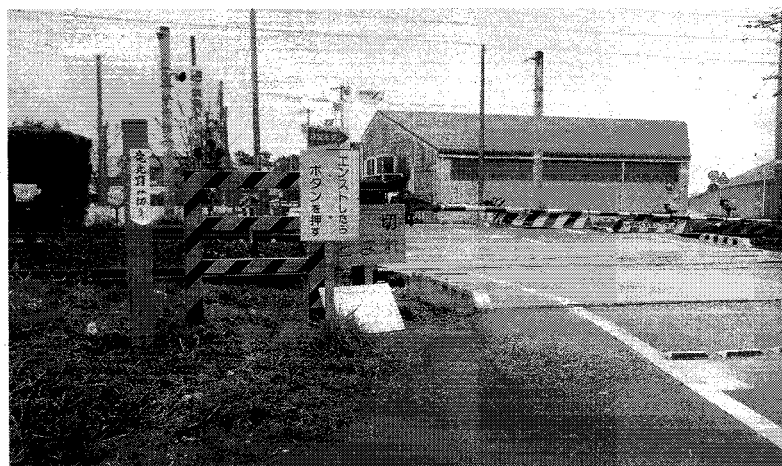
No. 35 竜光寺跡 設置場所 竜光町41番地内

その昔、遠江国長上郡飯田村の稻荷山龍泉寺の末寺として、竜光寺が建立され広く住民に信奉されていた。明治32年10月花火による飛び火で全焼し、その後本寺の龍泉寺も火災に遭遇して竜光寺にまつわる一切の文献は残っていない。町名の語源ともなっている由緒ある寺であったが、現在は墓地のみとなり先祖代々の霊をお祭りしている。



No. 36 竜光踏み切り 設置場所 竜光町90番地の7地先 JR敷地内

ここには、JR天竜川駅構内の青屋踏切り（警手つき）と竜光踏切りの二つがあった。青屋踏切りは国道一号線バイパス工事により廃止され竜光踏切りのみとなり、昭和57年に拡幅された。往時をしのぶ踏切り風情はないが、住民にはそれぞれの思い出ある懐かしい竜光踏切りである。



No. 37 権現の藪跡 設置場所 竜光町250番地内 神明宮境内

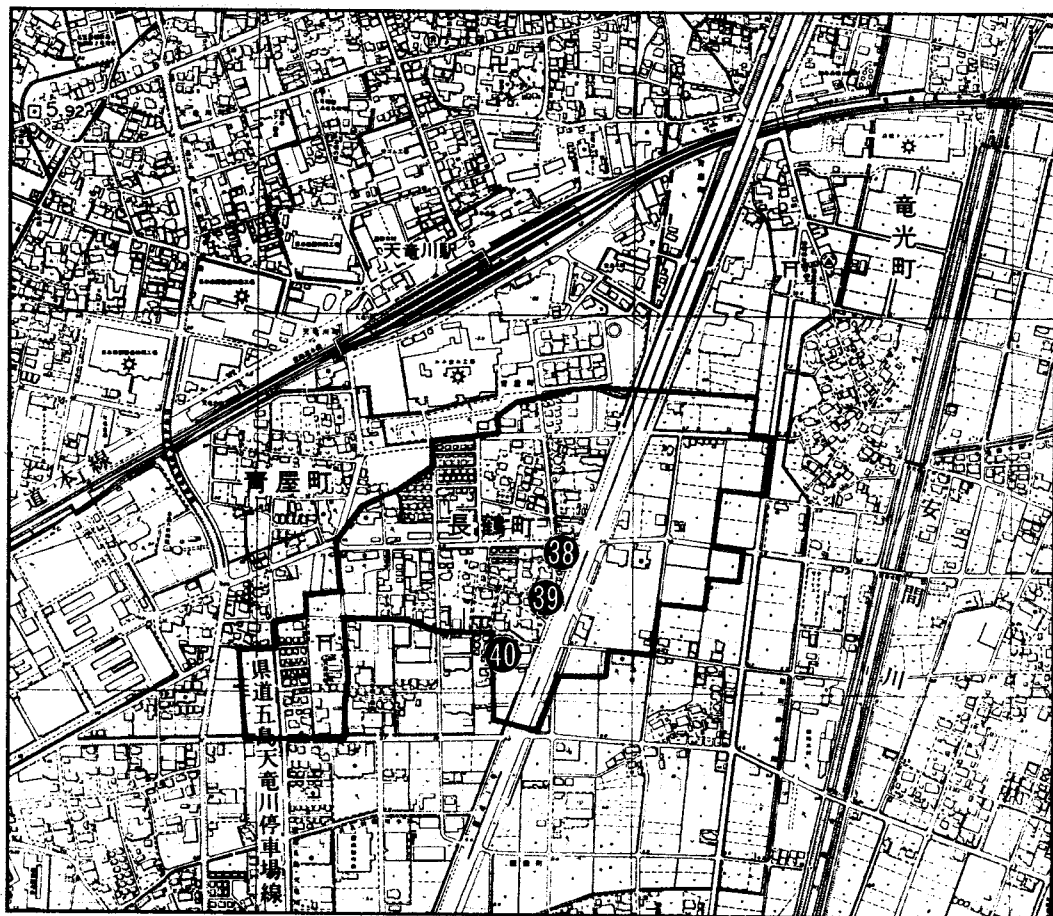
若き日の徳川家康が武田軍に追われて竜光村へ逃げて来たとき、村人が竹藪の中にあった、不浄小屋に人目を避けて数日間かくまって家康の難を救った。後日家康が天下を取った時、村人に大難を救ってもらった恩を感じて「何なりと望むものを申せ」と下問したところ、村人が「諸役御免」を申出たと伝えられている。これが認められた為特典に浴した村人が感謝の意で、神明宮の左側に別棟の小社を立て権現様と称し、現在でも4月16日お祭りをしている。以来この竹藪を「権現の藪」と呼ばれている。



長 鶴 町		
234世帯		
人 口	男	356人
	女	374人
	計	730人

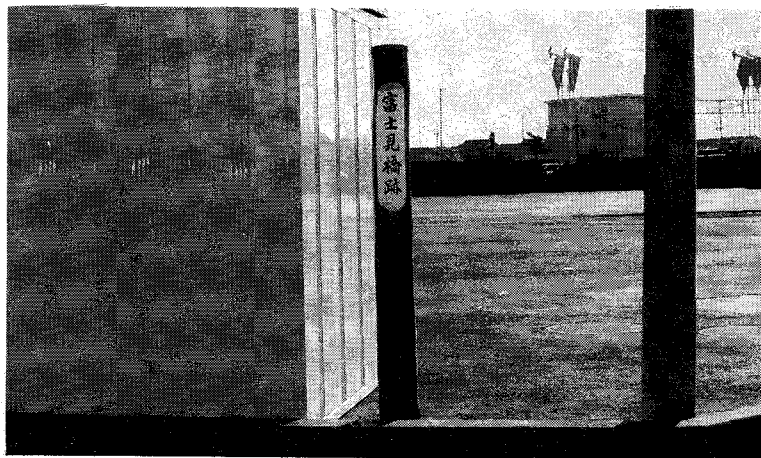
No	愛 称 名
38	富 士 見 橋 跡
39	秋 葉 灯 籠 跡
40	若 宮 様 跡

(平成3年1月1日現在)



No. 38 ^ふ ^じ ^み ^{はし} ^{あと} 富士見橋跡 ^{設置場所} 長鶴町167番地内 民地

昭和8年当地に初めて幅員2間（3.6m）の村道が新設された。この道を通称新道と呼び、部落のメイン道路として重宝がられていた。その時、小井堀り（灌漑用の小川）に架けられた橋で、橋の上より東北に白雪を頂く霊峰富士山が望見されたので、富士見橋と呼ばれるようになった。その後、昭和41年の土地改良事業により、5mほど北側に移された。



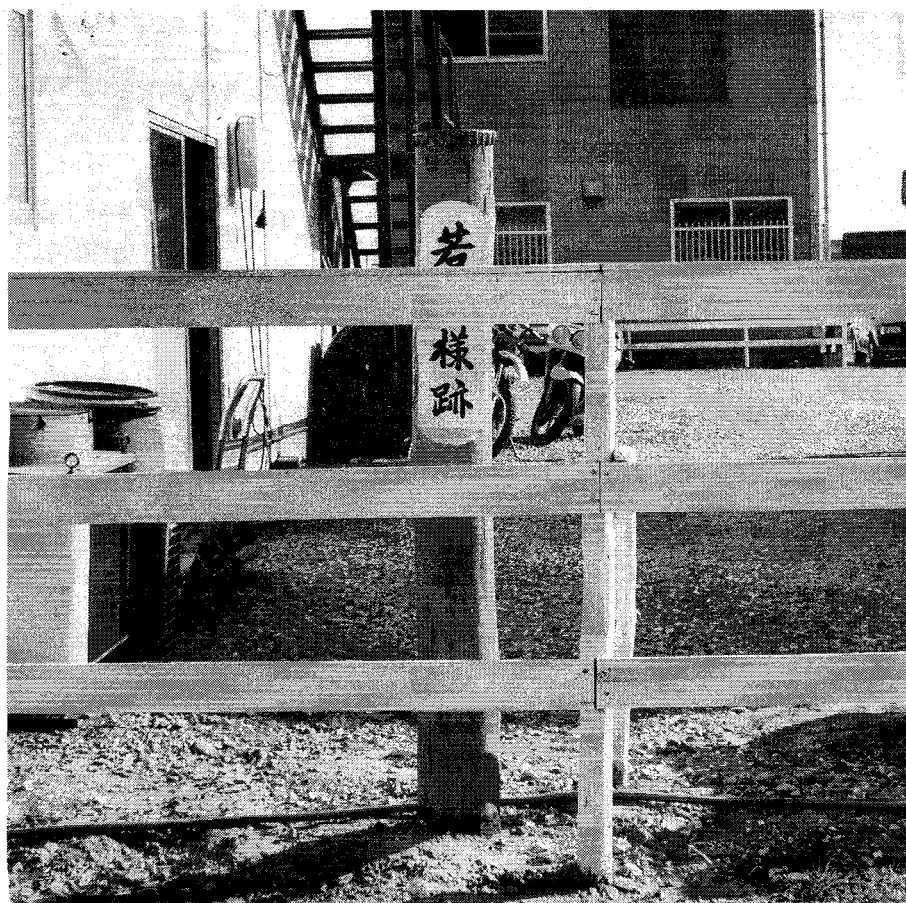
No. 39 ^{あき} ^は ^{とう} ^{ろう} ^{あと} 秋葉灯籠跡 ^{設置場所} 長鶴町216番地内 長鶴町簡易水道小屋横

火防の神として“火之迦具土大神”を祭神に、祠を建立して奉祭、毎晩住民が交替にて灯明をともし火災消除を祈念した。戦時中、この場所が消防ポンプの蔵置所となったので六所神社境内に移転しました。



No. 40 若宮様跡 設置場所 長鶴町224番地内
民地

いつごろ創立したか不明であるが、安政4年再建の棟札ある六所明神の飛び地境内に、同時代に“品陀和気命”を祭神とし若宮八幡宮を建立し、毎年8月15日に祭りを行う。昭和36年9月の室戸台風により社殿倒壊し、御神体は六所神社に遷す。



土地改良前
(昭和三八年当時)



土地改良後

(昭和四二年當時)

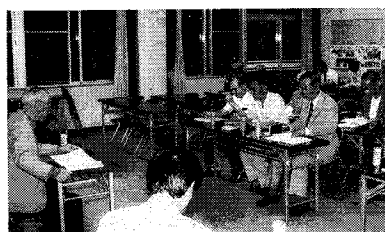


平成2年度和田地区 愛称標識設置モデル事業の経過

●4月7日 午後6:00～ (於 和田地区自治会館)

和田地区愛称標識自治会説明会

広報課よりモデル事業について趣旨説明を行う。



●6月8日 午後7:00～ (於 天竜公民館)

和田地区愛称標識設置委員会設立

役員選出及び今後の事業の進め方について協議する。

委員長	伊藤 忠雄	(和田地区自治会連合会長・長鶴町自治会長)
副委員長	渡瀬 明光	(和田地区自治会連合会副会長・安新町自治会長)
		(和田東小学校区体育振興会長)
理事	渥美 昇三郎	(天竜川町自治会長)
"	林 新三郎	(北島町自治会長)
"	加藤 貞雄	(薬師町自治会長)
"	渡瀬 準	(安間町自治会長)
"	伊藤 康雄	(竜光町自治会長)
"	平山 弥生	(和田地区婦人会長)
"	井口 佳孝	(和田小学校区体育振興会運営委員長)
"	小長井 明	(和田東小学校区体育振興会運営委員長)

理事会開催 午後8:00～

今後の事業進め方の詳細について協議する。



●9月8日 午後7:00～ (於 和田地区自治会館)

和田地区愛称標識設置委員会開催

各自治会から提出された愛称標識40本分について協議し、設置を決定する。

今後の日程について協議。

●9月18日～9月26日

愛称標識設置箇所確認

設置箇所に広報課と各自治会長立ち会いのもと確認する。

●10月21日午前9:00～ (於 和田地区自治会館)

設置委員による標識の塗料塗り及び標識の文字書き

今後の日程について協議

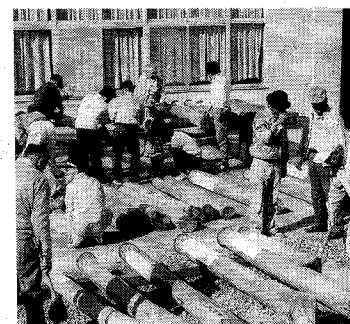
●10月下旬～12月26日

各自治会において愛称標識設置

●1月22日午後9:00～

愛称標識設置小委員会開催

冊子づくりの進め方について協議する。

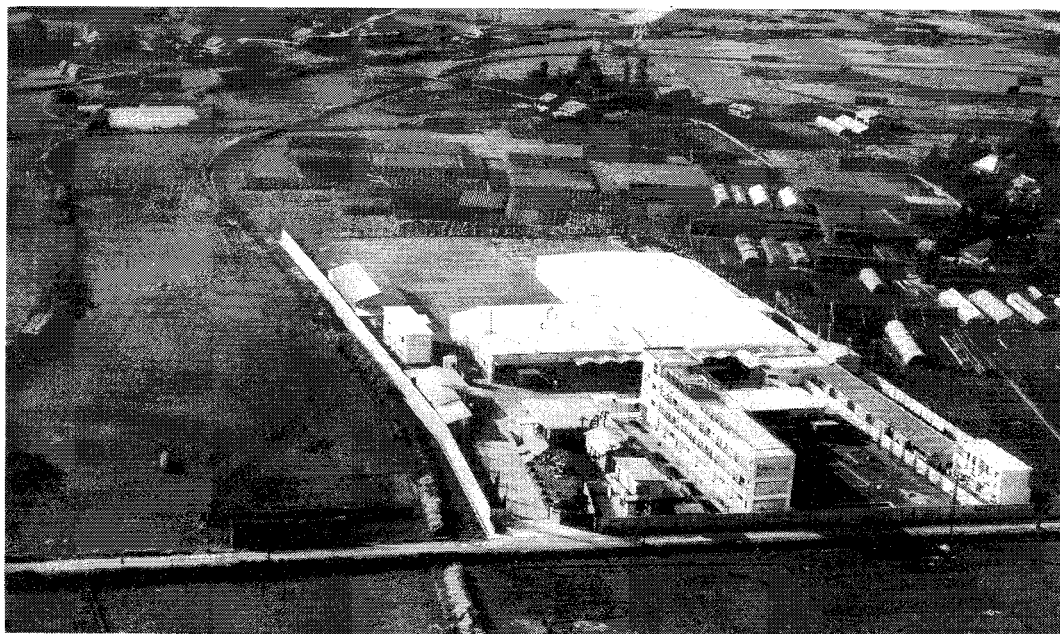


和田地区 愛称標識設置委員会委員名簿

◎ 顧問 (市議会議員) 鈴木芳治

氏 名	役 職
伊 藤 忠 雄	和田地区自治会連合会長・長鶴町自治会長
鈴 木 辰 治	和田地区自治会連合会副会長・和田町自治会長 和田小学校区体育振興会長
渡 瀬 明 光	和田地区自治会連合会副会長・安新町自治会長 和田東小学校区体育振興会長
渥 美 昇三郎	天竜川町自治会長
広 瀬 数 谷	篠ヶ瀬町自治会長
林 新三郎	北島町自治会長
加 藤 貞 雄	薬師町自治会長
小 枝 直 治	薬新町自治会長
渡 瀬 準	安間町自治会長
鈴 木 徳 治	材木町自治会長
伊 藤 康 雄	竜光町自治会長
瀬 崎 智 彦	薬新団地自治会長
平 山 弥 生	和田地区婦人会会長
加 子 美奈子	和田地区婦人会副会長
徳 田 淑 子	和田地区婦人会副会長

氏 名	役 職
小 塩 節 子	和田地区婦人会副会長
久 米 正 光	和 田 地 区 老 人 ク ラ ブ 連 合 会 長
樽 林 勇	和 田 地 区 老 人 ク ラ ブ 連 合 会 副 会 長
佐々木 む ら	和 田 地 区 老 人 ク ラ ブ 連 合 会 副 会 長
井 口 佳 孝	和田小学校区体育振興会運営委員長
小長井 明	和田東小学校区体育振興会運営委員長
石 井 九一郎	和 田 小 学 校 区 連 合 子 供 会 長
高 林 正二郎	和 田 東 小 学 校 区 連 合 子 供 会 理 事
伊 藤 勇 司	天 竜 中 学 校 P T A 副 会 長
鈴 木 雅 美	天 竜 中 学 校 P T A 副 会 長
鈴 木 修	和 田 小 学 校 P T A 会 長
大 原 立 生	和 田 東 小 学 校 P T A 会 長
有 働 忠 志	和 田 幼 稚 園 P T A 会 長
高 林 いつ子	橋 田 の 会
半 場 志げ子	橋 田 の 会
佐 藤 明 芳	天竜公民館長



(昭和37年当時の旧安間川と大池の航空写真)

編集を終えて

平成2年度の愛称標識設置モデル事業対象地区に指定され、2年6月より委員会が発足し多くの方々の力で、各所に意義ある標識が建てられました。それぞれの由来を皆さんに知って頂く為にこの冊子を作る事になりました。

委員全員が素人の上活字に縁の薄い人達の集まりです。参考資料も私達で集められる範囲内のもの、又古老からの云い伝え等による内容のものです、歴史的には、正確を欠いていたり内容も不出来と思いますがお許しを頂いて、今後の正確を期したいと思いますのでご教示をお願い致します。

最後に、快く資料のご提供や古老からの言い伝えをお話くださいました方々に厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

愛称標識設置委員会一同

発行	平成3年3月
編集	和田地区愛称標識設置委員会・橋田の会
表紙題字	渥美 友一
表紙絵	大竹 繁子
写真提供	丹羽 稔夫・鈴木 芳治・橋田の会・市広報課
印刷	中部電子プリンティング(株)

【正 誤 表】

1. 3ページ、4行目

【誤り】 薬師堂(お堂) | やくしどう (おどう)

【正しい】 薬 師 堂 | や く し ど う

2. 3ページ、7行目

【誤り】 堤あと

【正しい】 堤 跡

3. 13ページ、No13の1行目

【誤り】 (1688)

【正しい】 (1688年)

4. 16ページ、No17の設置場所

【誤り】 北島町638番地先

【正しい】 北島町638番地内

5. 18ページ、4行目

【誤り】 薬師堂 (お堂)

【正しい】 薬 師 堂

6. 20ページ、No22の標識名

【誤り】 ^{やく し どう}薬師堂 (お^{どう}堂)

【正しい】 ^{やく}薬 ^し師 ^{どう}堂

7. 21ページ、3行目

【誤り】 堤あと

【正しい】 堤 跡

8. 22ページ、No25の標識名

【誤り】 ^{つつみ}堤あと

【正しい】 ^{つつみ}堤 ^{あと}跡

9. 24ページ、No26の8・9行目

【誤り】 田橋と改名され安間川を挟ん交通の重要な橋となっています。

【正しい】 田橋と改名され安間川を挟んで交通の重要な橋となっています。

10. 27ページ、No30標識名

【誤り】 ^{どう どう やま}藤堂山

【正しい】 ^{どう どう やま あざ え つか}藤堂山 (字・江塚)

11. 27ページ、No31の設置場所

【誤り】 安新町1,406番地先 【正しい】 北島町1,406番地先

12. 32ページ、No35の1行目

【誤り】

その昔、遠江国長上郡飯田村の稻荷山龍泉寺の末寺として、竜光寺が建立され広く住民

【正しい】

むかし遠江国長上郡上飯田村の稻荷山龍泉寺の末寺として、竜光寺が建立され広く住民

13. 37ページ、17行目

【誤り】 " 小長井 明 (和田東小学校区体育振興会運営委員会長)

【正しい】 " 小長井 明 (和田東小学校区体育振興会運営委員長)